

第2520地区

 ひろがれ
 まわれ
 一つ心に

MORIOKA
 ROTARY CLUB WEEKLY

第23回例会(12月13日)
 平成26年1月17日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 川徳デパート内	会 長 平井 滋
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)	幹 事 平野 佳則
FAX(653)5622	会 報 金子 真也
例 会 日 毎週全曜日12時30分～	クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary. Change Lives. 'ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を'…… Ron D. Burton



新入会員卓話

「取材むかしばなし」

(株)テレビ岩手 代表取締役社長
 榎崎 憲二 君

1988年9月17日の午後。「空さえもソウルを祝福した」と言われた秋晴れを、私は恨めしく見上げていました。たった今終わったソウル五輪開会式で、手ひどく打ちのめされたのでした。姿は見えないけれど、何か得体のしれない大きな力に負けた。私は後輩の記者と二人、肩を落として蚕室競技場を後にしました。

話は4日前にさかのぼります。夜が明けて間もない時間、私は蚕室競技場で1人の老人ランナーを目撃しました。スタンド下の控室のようところで大会関係者何人かと打ち合わせをすませると、彼らに導かれてグラウンドに立ち、やがてトラックをゆっくり1周したのです。

控室に引き上げてくると、大会関係者たちが彼を取り囲み、「おめでとう」「がんばって」などと次々に握手を求めます。一目で要人と分かる人物がいつの間にかやって来て、その輪に加わっていました。よく見れば、財界の大物で知られた大会組織委員長です。もはや、疑う余地はありません。ソウル五輪開会式の聖火最終ランナーに、孫基禎さんが決まったというニュースを、私がつかんだ瞬間でした。

孫さんはこのとき76歳、戦前のベルリン五輪のマラソン金メダリストです。当時、半島は日本の統治下にあったため、孫さんは日本人と

しての出場でしたが、地元の新聞は胸の日の丸を消した写真を掲載し、民族の英雄とたたえましました。当初から、ソウル五輪の聖火最終ランナーには韓国初の金メダリストである孫さんが最もふさわしいと取りざたされていましたが、決定的な情報はなかったのです。

ソウルの前の五輪はロサンゼルスでした。最終ランナーはあのクレイ選手で、何十年ぶりかの表舞台登場に世界中が沸きました。そんなことも手伝って、ソウルでも最終ランナーは大きな関心事でした。私は特派員団の中でもベテランの部類でしたので、最終ランナーをつかむという難しい役回りを引き受ける羽目になっていました。

「夜討ち」「朝駆け」という言葉をご存知でしょうか。記者が警察や検察関係者の自宅に朝な夕な押しかけて取材をすることを言います。役所では話せないことでも自宅では口が軽くなることがあるからですが、そんな「悪習」があるのは日本だけだと思います。でも、それを私は韓国でもやりました。開会式プロデュースの最高責任者の自宅に、通訳と一緒に毎晩通い詰めたのです。相手はあきれ果てていましたが、ついにある夜、いたずらっぽくこう言ったのです。

「13日に蚕室に行ってみなさい。面白いもの

が見られるよ」。

最終ランナーに決まっている孫さんが、組織委員長の前で実際に走ってみせ、最終確認するのがその日だったというわけなのです。

13日の夕刊に「最終走者に孫基禎さん」という見出しが躍りました。1面のトップという扱いです。孫さんという人物の国際性もあったのでしょうか、外国通信社の記者が何人か、プレスセンターの私のところにやってきました。

「なんで、外国人のお前がスクープなんだ。どんな確証があるのか」

朝からの経緯を話してやると納得し、あわてて自社のボックスに戻って行きました。まもなく、彼らによって世界中にこのニュースが流れて行ったのです。

特異だったのは韓国メディアの反応です。ある新聞はコラムにこう書きました。

「我々は、開会式のサプライズで大会を盛り上げたいという組織委員会の要請にこたえて、取材を控えてきた。そうした我々の協力を、日本のメディアの小児病的特ダネ主義が台無しにしてしまった」

小児病的特ダネ主義とはうまいことを言うもんだと感心しつつ、内心、多少誇らしく思っていました。日本のメディアは当局からどんな要請を受けても、取材を控えることはありません。まず取材をしてみないと、要請が正しい動機によるものかどうか分からないからです。そして取材結果は、国民にとって知る価値があるかどうかという一点から判断して、報道すべきは報道するというのが日本のメディアの基本的な行動原理です。それを小児病的というなら、むしろ褒められているようなもの、という気分でした。

ただ、韓国のメディアが、このコラムに表れた空気で一色になっている感じが、不気味ではありません。なにごとか、嫌なことが起きるのではないかと。開会式前夜、特派員団で会食中に編集幹部が特報を祝ってくれた際にも、そんな

不安を口にしたほどでした。

開会式当日、私の不安は的中しました。孫さんが競技場内でトーチを受け取り、トラックを走り始めて半周ほどした時です。若い男女が孫さんの走路を遮るように登場します。2人は掲げたトーチに孫さんから聖火を移してもらい、残り半周を走って聖火台まで運びました。最終ランナーは孫さんではなく、その若い男女ということになったのです。

日本のメディアはメイン・スタンドの一角にまとまって取材席を与えられていました。私のちょうど後ろの席から、小さいながらもはっきりとした声が聞こえました。

「よしっ」

振り向かなくても誰か分かっていました。若いころ一緒に警視庁クラブを担当していた某紙の記者です。後にその新聞の名物コラムも担当しています。抜かれて相当悔しい思いをしていたのでしょうか。その他社の特ダネが、いま誤報になったのです。彼の気持ちもよく分かります。しかし、私にはこたえました。

誤報。新聞記者にとってこれは致命的です。落ち込んでプレスセンターに引き上げた私は、キャップ格の先輩に頭を下げました。

「すみません、やっしまいました。いずれ処分は覚悟していますが、取りあえず、朝刊をどうしましょうか。訂正が必要ですよね」

先輩からは意外な返事が返ってきました。

「馬鹿だなあ、お前、あの時の会場のスクリーンを見たか。ファイナル・ランナーズって複数形になってたろ。見てないのか、孫さんを含む3人の名前がファイナル・ランナーズとして紹介してあったんだよ。だから、ちっとも間違いなんかじゃあないんだよ。このまま知らん顔して朝刊作ればいいんだ」

ありがたい言葉でしたが、それでも、すぐにはこの日の秋晴れのような心境にはなれませんでした。ただ、実際には最後まで走らせないで、

しかし名目上は最終ランナーの1人にするという中途半端な策からは、孫さんを最終ランナーでなくしてしまうことへの組織委員会自身のためらいがうかがえました。それなら、そのあいまいさに便乗してしまっても罪はないのではないか。考えた末、結局、朝刊では何事もなかったかのように続報を書き、私もその後、新聞社をくびになるようなことはなかったのです。

この話にはさらに後日譚があります。ソウル五輪からちょうど一年後の秋のことです。記者クラブで各紙に目を通している時に、某紙のベタ記事の通信社電が目にとまりました。

ソウル五輪の組織委員長が自伝を発表した、という記事です。その本の中で委員長は、開会式の最終ランナーをめぐる動きについて、こう告白していたのです。孫さんに決めていたのだが、それを日本のメディアが特報したことで韓国メディアがそろって激しく抗議した。やむなく、収拾策として孫さんの後にもう1組の走者を置かざるを得なくなった。

「よしっ」。開会式の時の、あのライバル紙の記者の声を思い出して、私も心の中でつぶやいていました。あの日、開会式を一緒に取材した後輩記者が、私の「名誉回復」だと言って祝ってくれました。その彼も、今年病に倒れて鬼籍に入りました。往事渺茫です。

日韓関係が冷え込んでいます。韓国の現政権は安倍政権に対し批判を繰り返し、関係改善の糸口さえ見出だせない状態が続いています。安倍首相の過去の発言など様々な原因がありますが、その中の一つは間違いなく韓国メディアの存在です。韓国メディアの日本嫌いはもう筋金入りです。

今年5月、首相が自衛隊松島基地でブルー・インパルス練習機に乗り込んだ際、韓国紙は「軍国主義の亡霊を呼び起こす」と批判しました。機体番号がたまたま「731」だったことをとらえ、旧日本軍の「731部隊」を連想させ、

韓国などを挑発しているというのです。そのしばらく後、別の有力紙は、広島、長崎の原爆投下は「731部隊の犠牲者による復讐だ」と書きました。

新聞によると、10月のAPEC会議で、隣り合った首相と韓国大統領が挨拶代わりに「焼肉談義」を交わしたのですが、その内容を発表しないよう韓国政府は日本側に求めたそうです。メディアが、親しそうに話したのはけしからんと批判するのを恐れたためだとされています。

冷静さを欠いた、情緒的な論調は建設的ではありません。そればかりか、大きな犠牲も伴います。先ほどの私のささやかな経験ですが、あの件の被害者は私ではありません。真の被害者は孫さんです。最終ランナーの名誉を、すっかり汚されてしまったと感じなかったはずはないからです。そして、いま起きていることの最大の犠牲者は、両国の国民であり、両国の国益であることは言うまでもありません。

自戒を込めて言うのですが、メディアはしばしばこういう間違いを犯します。韓国に限ったことではありません。日本でも、同じことが起きています。古くは日露戦争の賠償交渉を批判し「日比谷焼打事件」を引き起こした例があります。昭和時代には全紙がこぞって戦争を煽ってしまいました。近くは特定秘密保護法をめぐる報道があります。この法律が通ったら、すぐにも暗黒の時代が訪れ、戦争への道が開かれる、などという論調は、明らかに冷静さを欠いています。必要なのは、安全保障上の脅威、とりわけ国際テロにどう対応するのかという視点での建設的な議論です。

メディアは社会の風通しを確保するのになくしてはならないと思います。でも、少々やっかいです。どう読み解くか、常にある程度突き放して考え、つきあっていただくしかない。当事者の片割れとしての私の、そんなことが今日の結論です。

年次総会

「次年度理事・役員について」

長澤 茂 次期会長

2014～2015 年度 理事及び役員

会長	長澤 茂	理事（国際奉仕担当）	岡村 弥
副会長	駒木 進	理事（新世代担当）	阿部 勇一
	藤村 文昭	幹事	樋山 桂
次期会長	岩野 法光	副幹事	飯塚 肇
直前会長	平井 滋		吉江 信博
理事（クラブ奉仕担当）	平野 佳則	S A A	吉田 育弘
理事（職業奉仕担当）	千葉 隆史	会計	佐藤 重昭
理事（社会奉仕担当）	金子 真也		

例会報告

第23回例会
平成25年12月13日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
 ・司会 平井 滋会長
 ・ソング 我らの生業
 ・四つのテスト斉唱
 ・会長報告 平井 滋会長
 ・幹事報告 平野佳則幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡西R.C.=12月19日(木)は、年忘れ家族会のため18:00～ 時間

変更。

- 盛岡南R.C.=12月17日(火)は、クリスマス家族会のため18:30～時間変更。12月24日(火)は、特別休会。
- 盛岡東R.C.=12月16日(月)は、クリスマス家族会のため15日(日)18:00～ 日時変更。
- 盛岡滝ノ沢R.C.=12月19日(木)は、クリスマス家族会のため20日(金)19:00～「すべいん倶楽部」。

【ニコニコBOX】

- ◆藤村吉隆君…先週の卓話では慣れないスピーチに、配分を考えずに時間オーバーしてしまい、申し訳

ありませんでした。時間が足りないにもかかわらず、壇蜜のくだりなどは余計だったと反省いたしております。そんなつたない話でも皆様にはご清聴いただきましたこと、またこのような機会をいただきましたことに感謝申し上げニコニコします。

●メークアップ

IM=大見山君。盛岡北R.C.=若松君。盛岡西R.C.=金子君。盛岡西北R.C.=佐藤(重)君。クラブ委員会=千葉・樋山・長野・佐藤(義)・白石・吉江君。

出席報告 □ 会員数 /67 名 □ 出席数 /43 名 □ 出席率 /69.35% □ 前々回修正出席率 /88.71%

- ・12月20日(金) 年忘れ家族会
- 27日(金) 特別休会

プログラムの
お知らせ

2014年

- ・1月 3日(金) 特別休会
- 9日(木) 新年慶寿の会(10日例会変更)

●本号編集担当 / 藤田 治彦

●次号編集担当 / 鹿野亮一郎